S06b　ブレーザー OJ287 の Double Peak Outburst の観測

有本淳一、田鍋和仁、本田敏志、定金晃三（大阪教育大学）

ブレーザー OJ287 は 1994 年 10 月にアウトバーストを起こし、同年 11 月 12 日に 14.03 等（V 等級）という最大等級を記録した。我々は大阪教育大学 51cm 望遠鏡によりこの天体をモニター観測している。1995 年 2 月までの結果は 1995 年春季年会（東京学芸大学）において報告した。今回はそれ以後の観測結果について報告する。
OJ287 は最大等級を記録した後、４回の小さなバーストを起こしながら減光し続け、1995 年 5 月に約 16.3 等まで減光し、その年の観測シーズンを終了した。
その後同年 11 月より観測を再開した。このときには 14 等級後半という結果を得、再び増光していることを確認した。そして 12 月 22 日に最大等級 14.01 等を記録し、その後急激な増光・減光を起こしながらもほぼ約 14.5 等を保ち続け、観測シーズンを終了した。
OJ287 の 1994-96 年の増光及び光度曲線のダブルピーク構造は過去 100 年間の写真乾板の解析と前回、前前回のアウトバーストの詳細な観測から予言されていたものだったのだが、最大光度やその後の減光率、また、特に２回目のピークが減光せず、いつまでも明るい状態を保っていることなどいままでの歴史的な観測と異なる特徴がいくつもある。今回は前回、前前回の観測結果との違いを中心に報告し、OJ287 の中心部で起きている物理状態の変化について考えてみたい。